令和５年度　第１回　加西市子ども・子育て会議

日時：令和５年 11 月 30 日（木）
13 時 30 分～15 時 30 分
場所：加西市役所１階多目的ホール

１　開会

２　委員の紹介

３　教育長挨拶

４　協議事項

（１）第３期「加西市子ども・子育て支援事業計画」作成に向けたニーズ調査について

○Ａ委員
　調査対象で、悉皆調査ということですが、例えば、小学生児童各学年全部ですね。それから、例えば、家庭によっては２年生と５年生の子どもがいる場合、２通保護者に送るのですか。

○事務局
　配布につきましては、小学生で２年生と５年生のお子様がいる家庭につきましては、５年生の方に配られて、保護者の方は２年生の方について答えていただくという形になります。

○Ａ委員
　そうですか、その辺の混乱がないように実施してください。また、統計的処理をされるときも、そこに混乱がないように整理しないと、我々が結果を見たときにどのように受け止めたらいいか分かりにくいところがありますので、きちんと調査なり実施要領等を明確にしておいていただければと思います。よろしくお願いします。

○事務局
　ご意見ありがとうございます。

○Ｂ委員
　前回は小学生でいうと 71.4％、就学前で 62.8％の回収率だったと。今回、悉皆調査ということで、案内文のみを配られるんですね。他に周知を図る方法を何か考えておられるのでしょうか。

○事務局
　加西市のＬＩＮＥがありますので、その辺りでも周知が図れたら、と考えていますが、誤って二重で回答される方もいらっしゃるので、そこは慎重に周知方法は考えていきたいと思っています。

○Ｃ委員
　幼児教育、幼児期の学校教育利用についてのところで、保育サービスのことでの説明が多いので

すが、学校教育に関して、保護者がどのような教育を願っておられるのか、そのような項目はございますか。幼児期の幼稚園も学校教育の一環ということになりますので、お聞きいたしました。

○事務局

この調査が、保育に関する利用量調査というところがメインになり、国の雛形に示されていないため、「教育の内容」というところまでは踏み込んではいないという形になります。

○A委員

最終的に、アンケートでこの統計的な処理は単純集計にとどめられますか。それとも、例えば、小学生の保護者対象のところで、問4でこの調査票にご回答いただく方はどなたですか、とありますよね。属性分析という言い方がありますよね。例えば、母親が回答されている場合の回答の傾向と父親が回答している場合、バイアスがあるかどうか分かりませんけども、その辺のいわゆる回答者の属性によって微妙に違うことがあるかも分かりませんよね。その辺をどこまで分析をかけられるのかなと。コンサルの方はどの辺までやってくれるんですか。簡単に言うと、この調査表の項目だけで単純集計をやれば、それで出てきますが、アンケートの結果の質を把握しようとすると、そういう若干の掛け合わせの整理も必要だろうかなと思いつつということなんですけど。またコンサルとご相談いただければありがたいと思います。

○事務局　　分かりました。

○D委員

保護者の立場からです。よく「アンケートに答えてください」と言われて答えるますが、私たち保護者の声がどのように計画となって市政に反映されているのかがいつも見えにくいと感じるので、「計画を立てないといけない」とか、「こういう声が出て、こういう計画があって、こういうふうになります」というところまで教えていただけたら、アンケートを答える側としても、「しっかり答えたら、私たちの声が、こういう計画に入って、こういう思いが子どもたちの教育につながるんだ」ということが分かるのではないかなと。他の方もよく言われるのですが、いつもアンケートをただ書いてくださいと言われて、何のためなんかな、面倒くさいな、という感じになってしまうので、そういったところも説明があれば、答える側も、もう少し真剣にできるのではないか、というところが、保護者としての考えです。

○事務局

お願いのところに書き込む、ということになりますが、書き過ぎると読んでいただけない、というところもあり、そのさじ加減かなと。検討させていただきます。

○E委員

このアンケートの中身のこれは国の標準的なアンケート項目ですか。

○事務局

そうです。国から示された項目を網羅しているという形です。

○Ｅ委員

ウェブ上でされるということですが、例えば携帯電話で見るのとパソコンの画面で見ると全然変わってくると思うんです。パソコンの画面では見れますけど、携帯ですと質問の文章が長すぎないかな、と思います。ずらっと並んでいますので、携帯ですと２０字も入らない感じになってきますから、２行にも３行にもばっと質問が入ってということで、長いページになりますので、その辺をもし検討されるのであれば考えられたらどうかな、と思いました。

それから、一番気になったところなんですけども、問 2 でお子さんの生年月日を聞いて、問 3 でお子さんは何人いますか、下の子どもの年齢を書いてください、となっていますね。これは逆の方がよくないですか。まず、子どもの人数を聞いて、それからその中に一番下の子どもの年齢を聞いて、それから何年生まれですかと聞く方が。いきなり年齢を聞いたら、一番上の子の年齢を書きそうな気がします。そして、次の問いを見て、「下の子を書くんか」となるから、これは逆にする方がよくないかな、と思います。

それと、5 ページの問 16 の 1 について、他のところも関係してきますが、幼稚園がきて、次に認定こども園で、預かり保育ってなっています。なぜ保育園が 4 番になったんですかね。逆にいえば、1 番に幼稚園、2 番に保育園、3 番で認定こども園、それから 4 番で預かり保育のほうが、何かきれいな感じがしますがどうでしょうか。

それから今、Ｄ委員さんが言われた部分とからむのかもしれませんが、第 2 期子ども・子育て支援事業計画が出されています。その中を見ていきますと平成 27 年から令和元年までが実績で、令和 2 年から令和 6 年までが推計という感じで、ここの項はできていますよね。令和 2 年から令和 5 年までの数値は出ていると思いますが、この計画に併せて、実績はどうだった、という答えは出されないんですか。次に計画を立てるとして、実際はこうでした、だからこうなんです、という動機づけにもなるとおもいますが、令和 2 年以降の数値は出ていますか。

○事務局

今回の第 3 期計画で第 2 期計画の評価検証の部分という章があります。それは令和 6 年度に今後の事業計画づくりに入る前段で、この 2 期計画の評価検証部分が入ってくる予定です。アンケートの手前でそれがある方がよい、ということですね。

○Ｅ委員

そうです。皆さんが書いていただくのに、動機づけにならないのかな、と思いました。

○事務局

分かりました。

○Ｂ委員

事務局から、それぞれのアンケート項目がどういう目的でこれを聞いています、といった説明はあるのですか。

○事務局

基本的なこのアンケート項目については、冒頭申し上げましたように、保育の必要量等に関するニーズがどれだけあるかというところを調査しながら、今後の加西市の子育て施策等に落とし込ん

でいくというところになろうかと思います。内容的には、就学前保護者対象のアンケートが、教育・保育の対象者というところになりますので、項目としては多くなってくると思います。

まずは、お住まいの地域の地域的な要望等も把握するために、お住まいの地域を聞く。お子さんの家族の状況については、どういった家族構成かというところ、また配偶者がおられるのかおられないのか、子育てに関しては主にどういった方が参加されているのかというようなところから聞いていくというような内容になっています。あと、基本的に、社会的ニーズの中で0歳児から保育を求めるという女性の社会進出、社会活躍というところで、女性にもどんどん社会に出ていってもらいながら自己実現をするという側面もあります中で、行政や保育現場が担うべき保育というもの自体のどこまでニーズがあるかというところを聞いていくような内容かと思います。そして、保護者の保育に関しては、就労状況によって保育に欠けるかどうかというところが大きな要因になってきますので、この保護者の就労状況、フルタイムで働いておられるのか、それともパートタイムで働いておられるのか、現在育児休業等の休職中であるのか、そういった形の中で今後どういった教育・保育を必要とされているのかということを聞いていくというような内容となっています。そして、主には平日の教育・保育というところが、提供のメインではありますが、保育園・こども園に関しましては月曜日から土曜日に開園していますが、日曜日に関しても保育の必要性があるのかどうかというようなこと、それから平日どれぐらい利用したいのか、保育の中では短時間認定と標準認定、それから延長保育というのもありますし、ニーズとしてはどのようなニーズがあるのか、そういったところを聞いていく内容があります。教育利用に関しましては、夏休み、長期休業中というのは預かれないという形になりますので、そういったときには一時預かりというものを利用していただくようになりますが、そのニーズがどれぐらいあるのかというようなことも調査の対象になっています。

あと、現在加西市では、11小学校において学童保育を実施しておりますが、小学校入学後、学童保育を利用したいのかどうかをお聞きするのと、また低学年のうちだけでいいのか、高学年でも保希望があるのか、といったことを聞きながら施設的に充足しているのかどうか、受け入れ体制が十分であるのかというようなところも検討しながら、施設が不足しているということであれば、今後それを整備するというような検討課題になってこようかと思います。それをいつ整備していくのかというようなことの検討の材料にしていく、それを計画に落としていきながら、国等の補助金なども活用しながら計画的に実施するということになります。

○B委員

ありがとうございます。

○教育長

今、ご意見いただきましたように、市として、教育・保育をどのように進めていくか、また、どのような目的を持って進めていくか、それに対して保護者の皆様がどのようにお考えになるのかということはすごく大事なことだと思います。それが見えないということをご指摘いただきましたので、それにつきましてもしっかりとこのアンケートをとる場合にできるだけ反映させていきたいと思いますし、教育部分でどのような力を伸ばしたいかという部分も、保護者の皆さんのニーズとなってくると思いますので、今ありました質的なものにつきましても聞ける部分についてできるだけお聞かせいただいて、今後の教育内容に反映していく、そういうことも必要かなと思っております。

例えば、特別な支援が必要な子どもたちに対して、この園がどのような支援が必要かというよう

なことにつきましても、保護者の皆さんから直接お声をいただくこともございますので、そういうことにつきましても、市として具体的な支援をどう考えていくかということも、ニーズといいますか、お声を聞きながら考えていくべきかなと思っておりますので、今出していただいたこと以外でもありましたら出していただいて、できるだけなかなかこういう機会はございませんので、保護者の皆様の声をお聞きして反映していきたいなと思います。よろしくお願いします。

○D委員

小学生の保護者向けアンケート5ページの学童保育を利用していない理由はなんですかで、その他に入るのかもしれないんですけど、放課後デイを使われている方もいらっしゃるので、その他で放課後デイと書かれる方もいらっしゃるかもしれないですけど、選択肢があれば、丸をつけやすいんじゃないかなと思います。ただ利用していないのではなく、放課後デイに行っているから学童を使わないとなると、また数的にも本当に必要な数というのが見えてくるのではないのかなと思います。あと放課後デイと学童を併用して使われている方も中には時間の関係であったりであるので、そういったところも何かアンケートの中で拾えるといろんなニーズがこのアンケートの中で見えてくるのではないかなと、その中には経済的な負担という部分も見えてくると思います。学童も払って、放課後デイも払ってって言われて、実際、経済的な負担もあると聞いたことがあるので、このアンケートの中に見えない声というのが、ただ丸をつけるだけでも数字が出てくるのではないのかなと思うので、その他というよりも学童保育を利用しない理由は、放課後デイがあるからというのもあってもいいのかなと思いました。

○会長

就学前の保護者の対象のアンケートと小学生保護者の対象のアンケートですが、国のアンケートをベースされているようですが、委員の皆様からご意見が出てましたように、加西市の実情に合ったアンケート内容に変更できる部分は変更し、加西市の見えないところが見えるようにところも大事だと思います。

○A委員

D委員さんが言われた放課後デイ、通常、放デイと言っていますが、加西市の利用状況はいかがですか。

○F委員

放課後デイサービスを市内3所運営しております。もう1か所の4か所目は児童発達支援という0歳から5歳までの支援事業者です。加西市には、現在、放課後デイサービスは全部で6か所です。6か所のうち3か所はうちが運営していますが、それぞれ定員10名のところで、6か所が集まって、横のつながりの会もありますが、ほぼほとんどのところが定員一杯というところです。

利用方法は定員がきっちり決まっているのではなく、1日に利用できる人数が10人。それに申し込みをするために延長と言ったらいいんですか、利用契約会員ですね、30人、40人というデイサービスがありましたら、そこを利用したいという人が私のところでしたら平均30人、40人いるんですけど、それが1日に利用できるのは10人ぐらいです。10人以上はできません。それから残った子どもたちはどうしているかというと毎日は利用しないですね。週に2回くらいの子どももいますし、今、D委員さんがおっしゃったみたいに少し軽いといいますか、学童保育と併用されている人

もいます。そんなわけで現在６か所ですが、全てほぼ満杯。毎日定員一杯くらのお子さんが利用しているというような状況です。

加西市では、ようやくニーズになんとか応えてきたかなという形ですけれど、年々利用を希望される保護者の方が増えてきておりますので、これは保護者の意識の変化だと思います。潜在的にはまだ1、2か所ぐらいは必要かなということは、担当課の課長さんとも話をしています。。

○Ａ委員

今これ誤解のないように、メインではないかもしれませんけど、Ｆ委員さんのお話でもかなり主流になりつつある、そしてまた希望も多いというようなところで、Ｄ委員さんがおっしゃったように若干選択肢みたいなところが想定されるようなことがあれば、つまり選択肢をどこまで広げてるかっていうのが、ある意味では加西市のバックアップ体制をちょっと反映するかなと思うんですよ。大きいところだけ３つだけ出すんじゃなくて、ほんとにきめ細かいところまで選択肢を出してるよというのが、加西市のアンケートの背景にある見えないところでの加西のグランドデザインにつながっていく。誰一人取りこぼししないよというような、そういうような視点に見えてくるのか。だからアンケートの選択肢というのは、まさに加西市のグランドデザインにつながっていくコアになるのかなと思いますので。Ｄ委員さんの質問をもう少し具体的に受け止められたほうがいいし、実質Ｆ委員さんのお話の中でも、ちょっと増えているよ、要望者は多いよっていう感じだったら、その辺は少し伝えられたらいいのかなと思いました。

○事務局

分かりました。ありがとうございます。

○Ｆ委員

Ａ委員さん、2018年からスタートしましたが、そのとき１か所目から始め、５年経ち、希望者はかなり増えているなというような実感があります。

○Ａ委員

私が知っている岡山の例でいうと、定員オーバーぐらいの要望者はあるんですよね。なぜかというと、いろいろありますけど、全体的に増えていると思いますよね。加西市もそうだということを認識しましたので、ぜひ。

○Ｇ委員

現場にいましても、年々、支援の必要な子どもが増えてきておりまして、加配の保育士が必要になってきているのが現状だと思いますので、今、Ｆ委員さんやＡ委員さんがおっしゃったところにつながるのではないかなと思います。だから、そういう支援の要る加配の保育士をつけるというところから、また保育士不足というところにもつながってきているのが、頭を痛めているところでもあります。

○Ｆ委員

病児保育というのは、最近ニーズで上がってきているのですが、医療的ケア児、例えばこども園などでお預かりすると、酸素を常に注入していかないといけないとか、そういう酸素の手当などを

するのは保育士ではできないので、看護師さんがいる。人員も要りますし、経験も要るのです。このたび医療的ケア児の入所申し込みがありまして、お話をしている最中に、加西市の受け入れ体制というのが、なかなか遅れているなというか、できていないなというのがだんだん分かってきまして、ガイドラインなどもこれからつくるということなんですが、かなり重いお子さんで、車椅子で移動するようなお子さんですけど、保護者の方は、病院にずっと入れておくのではなくて、他の子どもと一緒に、同じような幼児時代を送らせてやりたいということで、そういうニーズがあるんです。病院の先生からもずっと病院にいる必要はないと。受け入れ体制があれば、児童施設などで預かってもらうのが一番いいという。ですが、現場の方がなかなかそれに追いついていない。でも、今回、私たちが経験して切実に必要なね、そこのご一家もそうですけれども、必要な方が加西市でもおられるんだなというのが分かりました。見えてないけれど、幾らかおられると思います。だからそういう医療的ケア児の受け入れや、要望などもアンケートに入れられたらどうかと思うのですがどうでしょうか。

○事務局

国が、令和３年の６月に、医療的ケア児の受け入れに関し、認定こども園など福祉施設でも積極的に受け入れができるような体制を各自治体や行政に対して求めるという内容で、これまでは努力義務であったのを、努力義務よりも一歩進んだ形で積極的な受け入れをと定めてきております。受け入れに関しての支援を国は考えてはきていただいてはおるんですが、現状、各自治体がガイドラインを定めてというのがなかなか進んでいない状態で、加西市でもできていない状況です。今、Ｆ委員さんからもご指摘があったように、事後ですけれども、受け入れ体制やガイドラインをつくっていくという作業に入っているところです。

医療の発達に基づいて、今後こういった医療的ケアが必要な子どもが地域で生活するというところが、恐らく増えてくるという見通しの中で、我々もその体制をつくっていかないといけないということは十分に分かっております。どういった形の問いがいいのかどうかというのは分かりませんが、検討していきたいと思います。

○Ｆ委員

お願いします。

○Ａ委員

私は養成校に長年勤めていまして、養成校の協議会などの連盟もありますので、その辺でしっかりとらえて、国の方にも、もう少しプロモ―ションしようと思います。ただ、箱ものだけでなく、そこにスタッフも必要になりますので、その辺のきめ細かい子育て支援施策、経済的サポートなど、ぜひ今後プロモーションさせていただこうかなと思います。そのパイオニア的なところを加西市がやっているよ、ということなったらすごいですけど。Ｆ委員さんの意見、しっかり養成校側としても受け止めて、今後、国の機運にきちっと持っていきたいと思っています。

○事務局

ありがとうございます。

○会長

他によろしいでしょうか。それでは協議事項の２に移らせていただいてもよろしいでしょうか。

（２）令和６年度認定こども園等入所申し込みについて

○Ｅ委員

民生委員・児童委員の証明欄が削除されたということは不要といいうことですか。別様式にしなさいという指示があったわけですか。

○事務局

国は、自分たちで証明することを想定されていたようですが、他の市区町村では、自営業の方は、自分たちでタイムスケジュールを記入して、この時間働いているから家で保育できないよ、といった様式にされていましたので、加西市でも参考しました。

○Ｅ委員

特にそれで民生委員・児童委員の証明は不要という形でいいわけですね。事後報告でとおしていくから、その分はもうなしでいくという理解でいいのですね。

○事務局

そうですね。民生委員・児童委員さんも、本当にその仕事に就いているかの確認などはかなりの負担になると考えましたので。

○Ｅ委員

分かりました。ありがとうございました。

○会長

他にございませんでしょうか。事務局の方もよろしいでしょうか。それでは協議事項の３に移らせていただきます。

（３）加西市未来型児童館整備構想について

○会長

今までの会議の中の方向性とまた新たな方向性も出てる部分もありますが、今の説明につきまして、何かご質問等ございませんでしょうか。

○Ａ委員

細かいことですが、未来型児童館のコンセプトでインクルーシブということを用いていますが、もう少し生活状況、暮らし状況、社会状況を作っていくというところまでいくとインクルーシブではなく、ユニバーサルデザイン、ＵＤという方が、むしろ包括的かなと思うんですね。インクルーシブというと、向き合っていく状況、場面というところのイメージがします。障がい児保育では、

よくインクルーシブ保育といいますが、もう少し、誰もが当たり前のように、高齢者も含めて誰もが当たり前のようにそこに行って肯定的に受け止められるというこの生活空間、意識空間、社会空間といった面では、インクルーシブは間違いじゃないと思うのですが、ＵＤのほうがより包括的な捉え方になるかなという意見が一つです。

○事務局

ＳＤＧｓの考え方の中で包摂的という言葉が一般的な形になってきているようには思いますが、やはりまだＵＤという方が福祉的な意味合いが強いという理解でよろしいでしょうか。

○Ａ委員

その辺について、市でもう少し検討していただいて。

○事務局

分かりました。

○Ｄ委員

この会議にもずっと参加させていただいて、この未来児童館については、視察にも行かせていただきました。いろいろな話し合いの中で、小中学生のサードプレイスという部分なんですが、視察に行った三重県のところでも、部活があったりで場所に行けないで利用されている方がほとんどいない、という現状を聞きました。学校に行けない子たちが行く場所になるのかな。サードプレイスと書かれていますが、どのような子がどのような形で利用するのかが明確でないと、市民の人たちの不満というか、そんなものをまた作って、そんなん何のために作ったんかな、ってならないのかな。利用する立場でもありますけど、ただ言葉を並べて、そういう居場所っていうのを作るとありますが、現実、本当に小学校や中学校の子たちが、そういう場所に放課後に行けるのかな、という部分も踏まえた上で計画を立てていかないと、市民の立場としても、少し不安かなと思います。

○事務局

これまでは１か所に集約した形の新たな施設ということでご議論いただいていましたが、現在の状況からいうと、新たな施設を建てていくという方向性ではなく、既存施設の中に新たな機能を盛り込んでいくことができないだろうか、若者がなかなか利用できていない、そういった施設に、そういった若者が利用したくなるような機能を盛り込んでいきながら相乗効果を図れるような、そしてその施設の利用率も上がるようなことが考えられないか、ということで検討していかなければならないと考えています。新たな施設を作っていくということでは考えておりません。

○Ｆ委員

施設の方向性の１のインクルーシブな遊び場づくりに、ＳＴＥＡＭで未来づくり、3 のみんなに優しい窓口づくりと書いてありますが、これを読んでもイメージがわかないんですよ。議会にも説明するという話でしたし、これをインクルーシブな遊び場つくりというのは、具体的にどういう遊び場なのか、ＳＴＥＡＭで未来づくりって、ＳＴＥＡＭって前から加西市でやっていますから、あんなことかなというのは分かるんですけど、未来づくりっていうのはどういうことなのか、みんなに優しい窓口づくりって具体的にはどういうことなのか、何か言葉があまりにも文学的表現過ぎて、

イメージがわかないので、これだったら少し弱いんじゃないかなと思うんですよね。

もう一つは、サードプレイスをつくられるということで、いいことだと思うんですが、サードプレイスって、大人だったら会社帰りの居酒屋みたいなものですか、それをサードプレイス、第３の空間になりますよね、そういったものだと思うのですが、子どものサードプレイスって何かなと、今だったら子ども食堂とかあると思うのですが、こういうものについては児童館で何か対応するとか、そういうことはお考えでしょうか。

○事務局

まず、インクルーシブな場所づくりというところで、基本構想の中では障がいの有無にかかわらず、発達障がいであったり、身体的障がいがあったり、ハンデキャップを持った子どもたちも同じように遊べるインクルーシブ広場のようなものを作っていこうというような内容だと思っています。

あと、ＳＴＥＡＭでの未来づくりということは、いろいろな映像を見たり、サイエンスなどを自ら体験できるようなスペースで、また新たな自分の興味、関心を見つける。それが身近に学校やそういった施設だけではなく、日常的な、少し興味がある分野に関して、例えば公民館でそういうことが体験できるような機能ができないかというような、興味や関心から、自分の将来像を描いていくとか、そういった未来をつくっていくことを可能にするような施設機能ということかな、と私は理解しております。

みんなにやさしい窓口づくりということに関しては、例えば、障がいに関する悩みであったり、子育てに関する相談であったり、虐待、ドメスティックバイオレンスなど外的な圧から解かれる方法であったり、いろいろな生活のしづらさなどを１か所で解決ができるような窓口をつくっていこうということかなと思っています。

ここ２年間議論してきた中では、市にはそれぞれのパートパートの相談窓口であったり、対応窓口というものはあるのですが、それが点在しており、いざその困り感を持っている市民がどこに問い合わせればいいのか、分かりづらいという声があったんですよね。それで、みんなにやさしいと言っているのは、とにかく分からなくても一旦は総合的に承ると、それを承ったところが采配をして、しっかりとニーズに合うようなところに接続させていくと、そういうふうな役割を果たすものがどこかで組み込まれないと、せっかくやっているのに、市民にとってはどこが何をやってるかが分からないっていう声に対しての対応、そういうことを言っています。ですので、みんなにやさしい窓口というのは、抽象的な表現で分かりづらいとよく言われるのはもっともですが、イメージはそういうことです。それを付属棟に作ることによって、基本的にはそこを総合的な窓口というように設けていきたいという考えです。

可能な範囲ということにならざるを得ないのですが、可能な範囲で子育て支援につながるようなセクションをその中には入れていくと、そういうことでハード面での体制を整えていく。そんな形で、この未来型児童館、基本的にはもう新たな箱は建てないということになりましたけど、この中で議論された必要な機能は整備をしていく、そういうイメージに理解してもらえればと思います。

○Ｆ委員

新しい建物は、建てないのですね。裏に何か建てる、と聞きましたが。

○事務局

（市役所裏の芝生に）付属棟を。

○Ｆ委員

子育て世代の人たちが、悩みなど、いろんなことを抱えたときに、そこへ来れば、そこから振ってもらえるということですか。ソーシャルワークをやってくれるということですね。ソーシャルワークをやれるソーシャルワーカーがそこにいないといけないということですね。

○事務局

はい、イメージはおっしゃるとおりです。ただ、市役所の業務は、ご存じのとおり、多岐にわたりますので、しっかりとコンシェルジュできるかどうか、職員のスキルアップも必要だとは思います。いずれにせよ、ほぼ関連する部署というものを集めますので、それはあっちに行ってくれ、あれはこっちに電話してくれみたいなことにはならずに済むとは思っています。

○Ｆ委員

ＳＴＥＡＭで未来づくりですが、いわば人がそういうことを目を開かしてくれる人間が大事だと思うんですよ。そこにそういう人がいて、子どもがああそうなんやと科学的な考え方でね。それをできる人がやっぱり何人かいないとできませんよね。そこが大事かなと思います。

もう一つは、インクルーシブな遊び場づくりで、いろんな障がいのある子どももそうじゃない子ども一緒に集めて遊ばせる場所というイメージは分かりましたが、私どもが放課後等デイサービスで、主に発達障がいのお子さんとかを対応していますけれど、やっぱり他の子とうまくやっていくのは難しいお子さんもいらっしゃるんですね。良い時と悪い時がものすごくはっきりしていて。だから、難しいお子さんの場合は、なかなか学童保育の中に入れないということに結果的になります。学童保育で預かるとちょっと他の子が困ってしまう。あるいは学習塾も断られる。スイミングクラブなんかでもだめやと断れるということになってしまいますので、インクルーシブな場をつくるというのは、すごい理想的で先生もさっきおっしゃいましたようにデザインで一番いいと思うんですけど、対応できる人が必要だなと思います。我々の放課後等デイサービスでもかなり専門的な知識が必要となってきますし、いつも研修していますけれど、言うは易し、行うは難しみたいな、実際に事業者としてやっていましたら感じました。

以上が、感想です。

○事務局

ありがとうございます。

○Ｃ委員

先ほど、相談窓口を一つにというお話で、それは本当にいいことだと思いますけど、その前の段階として、自分のお子さまを預けている保育園やこども園など、身近な先生方がそういう幼児教育アドバイザーとか、特別支援コーディネーターという立場の方を各園で配置していくのが望ましいなというふうに感じますのと、私は神戸市で勤めておりましたけれども、インクルーシブ教育相談員というのが、区単位での配置があったんですけれども、そういう方が小学校と保育園やこども園との橋渡し的な感じで、保護者の方が安心して相談できるっていう体制をとっていました。いきなり保護者の方が役所のそういう窓口に足を運ぶっていうのは、すごく敷居が高い気がいたしますので、園の最も身近に自分の子どもを日々見てもらっている先生方の中で、そういう人材を育てるっ

ていうシステムが構築されればいいなっていう感想を持ちました。

○G委員

施設の方向性のこの１、２、３点はすごく素晴らしいことだと思います。みんなにやさしい窓口づくりについて、市役所にはいろんな相談窓口あり、それぞれにスペシャリストがいらっしゃるんだと思うんですけれども、それ以上に、ここのみんなにやさしい窓口に座られる方、ここで電話対応を受けられる方が、他のセクションの誰よりも全てのことに対して認識が深くて、全ての事に対するスペシャリストでないと、相談を受けたその内容をそれぞれの窓口に振り分けることができない。だから、この施設の中に従事するスタッフが本当に一番のスペシャリストであるべき人材を寄せてこないと、この施設は成り立たないと思います。

ＳＴＥＡＭ教育で未来づくりとおっしゃいますが、学校で理科や数学を学ぶよりも、もっともっと夢のあることを、もっと先のことをやってみたいっていう人たちに対して、何か情報を提供するわけだから、基本的に、学校の先生よりも、もっと知識のある人、もっと能力のある人をここに配置しないと不可能であって、ＳＴＡＥＭ教育って、大概、理系か芸術系にはなると思いますが、我が子も理系の研究室に入っておりますが、それでもその研究室の中の生徒でも、ほとんどの生徒たち、研究者たちが自分の研究に対してあまり魅力を感じてない。自分にポテンシャルがあるかどうかも不安であるという、日本の研究者の中の意識もそんな感じになってきている中で、学校教育の芸術とか、理数系の情報よりもより進歩した、より先に行く、より深い情報をこの施設の中で提供するための人材を集めるのはなかなかのものじゃないっていうふうにも思います。

１番目のインクルーシブなっていう、そこにもいろんな障がいをお持ちのお子さんもいらっしゃるだろうし、別に障がいというほどのことじゃないけども、日々の生活の中でずっと気持ちが不安定になったりする子どもたちもいるわけで、そういういろんなタイプのいろんな子どもたちが一緒になって遊べるよっていう、それを見守る側も、本当にスペシャルリストな保育士さんが必要になってくるんだなっていうのは実感として思っていて、そういう中で、この方向性を兼ね備える施設は、それは夢のような施設ですけども、本当にできるんやろうかっていうのが私の実感です。現実問題として、やっぱり私が思っているのは、去年の１０月から、３歳未満児さんも保育料無料になり、小さいお子さんも園で生活されることが多くなってきた状況の中で、園での支援者、園で保育士を支えれる、そういうスペシャリストの方が、今一番必要で、そういう方をできるだけたくさん市でなんとかしていただいて、園で生活する子どもたち、園での子どもたちの生活を支える保育士さんの支えになっていただけるような方を要請すべきではないかな、と私は強く感じております。

○事務局

未来型児童館のことは、先ほど申し上げたとおり、物はもう建てないということになっています。ただ、その機能をどこかの場所で整備をするということになった際には、今のご意見を踏まえながら整えていきたいと思います。

○事務局

（Ｃ委員さんからの御意見について）現場の状況といたしましては、簡単にはなりますが、今の園の先生方が、例えば、園に１人ずつアドバイザーや相談員の方がいらっしゃるというわけではありませんが、市といたしましては、児童療育室というところがありまして、お困り感を抱えられた保護者であったり、職員の悩みの相談の対応といたしまして、児童療育室から専門の知識をお持ち

の方が園の方にお越しいただいて、アドバイスをいただいている現状です。加西市の方はそういった形をとらせていただいております。また、園に入っていらっしゃらない未就園のお子さまに関しましても、健康課の方から少し発達に気になられているお子さまだったり、まだ保護者の方の意識がそこまでではなくても、専門家から見て少し気になるのでという形で整えていただいたり、という体制を現状はとらせていただいています。

○H委員

子どもが、去年まで、こども園に通っていましたが、教室や園での保育を見させていただくと、まだまだやとは思いますが、非常によく頑張っておられるな、という印象を持ちました。アドバイザーがいらっしゃって、教室の環境づくりなども指導されているのか、すごく工夫されていました。そのことが、教室で園児たちと同じように過ごせる環境をつくっておられるな、と私個人的には思いました。保育参観とかさせていただいた感想です。

○会長

要請校の学生さんの現状は、いかかですか。

○H委員

特別支援教育ということに関して、学ぶ意識がすごく高い学生が増えてきているなと思います。そういったことから、心理学やそういった科目も頑張って教えていって、特別支援の現場に行ってもそのような研修をされているところが増えているな、という印象です。まだまだだと思いますけど、意識は確実に上がっていると思います。

○会長

Ｉ委員さんはいかがですか。

○Ｉ委員

そうですね、私が一番思うことは、子どももそうですけど、子どもより、今は、保護者の方が結構悩みをお持ちだな、と思います。園としては、支援の子どもたちの親だけはなく、保育に関する悩みや子育てに関する悩みは個別懇談で尋ねたりはしております。遠方から加西市へ転入された方の中に、保護者自身が発達障がいを持たれ、大きな園にすぐに子どもを預けるとなると、自分が抵抗を感じる。だから小さいところから預けていくという形で。卒園後の小学校は、加西市の中で一番大きい校区ですが、自分自身が参観へ行ってもちょっと入れない、という保護者もいらっしゃるんです。ですからそういうお母さんもいらっしゃったり、どんどんぐいぐい入っていかれるお母さんもいらっしゃいますけど、もれなくいろんな方を受け入れられる、A委員さんも言われたように、誰もが受け入れられる、そういう環境をつくっていくことも大事かなと。

子どもが楽しそうにしてたいら親も嬉しいんですけど、子どもが手を握ったりしたらちょっと不快感を感じる親もあったり、いろんな親があって、現場にいると、おじいちゃんおばあちゃんは地域性がありますが、おじいちゃんおばあちゃんの世代には頼りたくない保護者もいらっしゃるし、こども園や保育園などの子どもさんを預かっていく施設としては、そこで保育を提供していくということの大切さもありますが、お母さん自身ももっと元気になって欲しい。だから子どもさんがこういう場でいろいろ楽しいことをして、それを見ながらお母さん自身も元気になって欲しいので、

親子で楽しんだり、ＳＴＥＡＭ教育もそうですけど、親子でつくり上げていける、親子で企画して、参観で見るだけじゃなく、参画で一緒に参加していけるような、そういうものづくりができたらいいなと思います。今、加西市が発信するけれども、加西市だけじゃなくて、いろんなところからも呼び込められるような、そういう保育現場なり教育現場っていうのが今からは大事なんじゃないかなと、私は思います。

確かに、毎日お子さんを預けて、コミュニケーションを図っていますので、そういう場所をつくりたいんですけれど、こども園とかもなかなかそういう人がいないんですね。小学校とかでしたら、養護教諭がいらっしゃいますよね。こども園や幼稚園にも養護教諭のような存在が必要じゃないかな、と思います。看護師資格を持っている方もいらっしゃいますし、ソーシャルワーカーでもいい、フランスだと、保育士は皆さん全員、看護師とかになるんですよね。そういう子どもの健康や心、あるいは福祉の制度など、ある程度知識を持って、現場の職員も頼れる人、相談できる人、養護教諭でしたらそういうことをされているんじゃないかと思います。現場の先生だけではちょっと目いっぱいになってしまうので、保護者も、それから現場の保育士も、養護教諭のような人がいれば、随分と助かるというか、余裕ができるかと思います。ただ、現状は、人を１人増やすだけでもお金がなかなかないところが多いです。私の園にも看護師さんを雇っていますが、フルタイムでは雇えません。パートタイムで雇ってますので、パートタイムの方にそれだけの仕事をしてもらうということはなかなかできないです。本当は養護教諭のようにフルタイムで、かなり知識がある方が１人いらっしゃり、そこへ親も行ったり、それから保育士なんかも相談し、みんな一緒に考えると。そしたらすごくそういう機能が向上できるんじゃないかなと思ったりします。

インクルージョンの問題は、結局コミュニケーションの問題があると思ういます。うまくいかないのは、コミュニケーションがうまくいっていないから、インクルージョンできないというのが多いです。発達障がいのお子さん、親御さんもさっきおっしゃったみたいにいるんですけど、コミュニケーションをどうしていくかで、インクルージョンはかなり解決できると思ういますが、そういう人材を加西市が配置するとなると、お金がかかりますけど、頑張るんだということでやっていただいたら加西の保育は１０年ぐらいたったらすごくよくなっていると思います。

○会長

ありがとうございました。現場の者としたら、Ｆ委員さんがおっしゃるとおりです。やはり、加西市も公立と民間と一緒に研修会を計画してくださって、今までにない流れになってきておりますので、保育現場の研修も大事ですが、今、Ｆ委員さんや他の委員さんがおっしゃたようなそういうスタッフの役割が担えるような先生たちの研修も、これからは必要になってくるのではないかなと思います。

こども園になって、多くの職員を抱えている中で、先生たちのケアもしないといけないし、保護者のケアも、もちろん子どももですけれども、全てを保育士が担うというのは本当に無理なところがありますし、看護師がいたらいいなと思うこともあります。

熱性痙攣で、救急車を要請する状況のお子さんが増えてきております。Ｆ委員さんが医療的ケア児の話をされましたが、私の園でも、心臓など医療的ケア児に近いような園児もおります。そのあたりの対応も、全て先生たちはこなしていかないといけませんので、そういうところを、少しでも加西市の補助があればいいな、と切に願います。

○会長

未来型児童館では、まだまだ話し合いが必要なところもあるとは思いますが、今まで、皆さんで何度も討議され、また現地の視察もされてというところで、また少しずつ計画が固まっている方向になってきているのではないかな、と思います。今日の話し合いは、一番今までぎゅっと固まった部分が見えてきたのではないかと思います。事務局のほういかがでしょうか。

○事務局

未来型児童館に関しましては、現状の報告をさせていただいて、引き続き、方向性については、教育委員会で検討させていただきたいと思います。この場でのご意見についても、現実化できるような方向性を考えていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（４）その他

○会長

その他、何か委員の皆さんで加西市にこの機会に、ご質問とご意見ありますでしょうか。

私の園の近くには、小学校がありません。今まで、小学校の校長先生に、交流を持たせていただよう何度かお願いしていました。今年度は、北条東すみれこども園さんと、北条東小学校に出向いて、参観をさせていただ来ました。今、小学校の先生もいろいろ忙しい時間を過ごしておられると思いますので、大変だと思うのですが、小学校の先生がこども園に少し出向いていただき、現場の見学というのか、子どもたちの姿、就学前の子どもたちの姿を見学していただけるお時間もとっていただいてもいいかなと思います。いきなり、小学校１年生の姿で子どもたちが入学するのではなく、乳児期・幼児期を過ごして小学校に入学する、その幼児期の姿などを見ていただくだけでもいいかな、と思うのですが。お忙しい先生たちばかりであると思いますが、そういう交流をもうずっと以前から国も言っておりますし、市にもいろいろアプローチをかけたのですが、なかなか実現できないっていうのが現実です。そういうふうな方向性も持っていただけたら、私たちのような離れている園としましては ありがたいなと思っております。

○事務局

バスがおありということで、以前より、北条東小学校にアプローチしていただき、昨年度は、北条東すみれこども園さんとも交流を持っていただいて。今年度もまた、小学校につなげていただいてありがとうございます。昨年度まではコロナのことで公立園も、すぐ隣りに小学校があるのにも関わらず、交流ができていないような状況でした。ですが、今年度は、コロナも５類になりまして、少しずつ、小学校とも交流を持たせていただきたいということで、少しずつ進み始めています。

今年度は、公立園ですけれども、公開保育を持つことで、小学校の先生にも園に足を運んでいただく、反対に園の職員が小学校の授業や遊び時間を見せていただく。そういう機会を持たせていただいて、そこに私立の先生方にも見に来ていただく機会を、今年度は設けさせていただいて、本日、その機会が加西こども園であり、私立園からも、小学校の先生もお越しいただいて、園児の様子を見ていただいたような状況です。全ての子どもが加西市の子ども、ということで、公立私立関係なく、どの子が、どこの小学校に行っても、小学校の先生も受け入れていただけるような体制がとれていくことが、一番望ましいかと思いますが、できるだけそちらのほうの方向に進められるように

できたらと思いますので、またちょっと気長に。気長ではないんですけど。

○会長

現実はよく分かっております。

学校によりましては、先日の健康診断のときに、少し早めに来ていただきまして、1 年生の子どもたちの生活の様子をご覧になってください、というようなお誘いもいただきまして、健康診断のときに、それを果たしていただけましたので、ありがたいことだなと思って。以前、校長先生とそのお話をしていたことがありましたので、頭の片隅に覚えてくださっておりまして、お声がけしていただいたことは、本当にありがたいことだなと思って感謝してお話しさせてもらいました。

北条東すみれこども園さんとは、丸山公園で、お互いにいろいろな持っている遊びを出し合って、先生たちも交流させていただきました。一緒に遊んだグループのお友達同士で、お手紙を送り合って。私の園が先に出したのですが、昨日、北条東すみれこども園さんからおはがきが届きました。園の先生たちが郵便屋さんがちゃんと愛の光に届けてくださったのよ、というように郵便屋さんの演技をし、子どもたちは、本当にそれが現実で喜んで対応をしておりました。そういう本当に小さな、些細なことから、子ども同士の交流ができたらなと思っております。そんなに一足飛びには思っていませんので、徐々にそういう交流ができたらな、と思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○Ｅ委員

令和 6 年度の入所申込はもう終わっていると思いますが、この中で、定員割れや、希望されたところへ入れないといった状況はなかったですか。要は、第 1 志望が第 2 志望にかわったところとかいうのはどれぐらいの状態だったのかが一つと、それからちょっとユーチューブなどを見てますと、中国などでは多くの子どもの感染症、コロナやインフルエンザ、マイコプラズマなどいろいろあるのですが、加西市の状況はいかがですか。

○事務局

加西市は 10 月 27 日で受付は終了していますが、近隣市町で、11 月末まで受付をしている市町もあります。その市町にお住まいのお子さまが、加西市の園に入りたいという場合、そこの市町から送って来られる方もございます。現在はそこの市町に住んでいるけれども 4 月までに加西市へ転入するという方の受付も、まだ受け付けている状態です。一旦、今日の時点でどれぐらいの申し込みがあったのかを集計しまして、その後、各園に来年度どれぐらいの人数の受け入れが可能ですかというような照会をかけていく予定です。令和 5 年度に関しましても同じようなスケジュールで動いておりました。

入れなかったお子さま、第 1 希望ではなく第 2 希望になったお子さまについては、７割から８割の方は第 1 希望で入所は決定しております。ごくまれではありますが、申し込みをされた方の中で、育休を延長したい方がいらっしゃいます。育休を延長するために、市に申し込んで、定員がいっぱいで入れなかった、という証明書を出さないと育休が延長できないという方もいらっしゃいますので、そういう方々は育休延長したいという希望を聞き、定員がいっぱいの場合は、入所保留という形にしております。

残り何人かは、入所保留、第 2 希望や第 3 希望の園に決定したり、第 3 希望までもだめで施設を変更して違う施設に入られる方もいらっしゃいます。あとは、既に兄姉入っているので、違う園に

入りたくないというので、入所保留という形の方もいらっしゃいます。

令和 5 年度につきましては 今の段階でゼロ歳児の方で、もうどこも入る園がないという方も数名存在しております。

○会長

今後、インターチェンジのあの辺りなどすごく誘致されて、多くの工場が建設されるような姿が見れるのですけが、市外から加西市にお勤めの方の市外枠みたいなものは加西市はあるんでしたか。加西市の方のほうがポイントが高いでしょう。

○事務局

そうですね、どうしても加西市の方を入れて、空きがあれば市外の方も、というので、市外の方でも、加西市にお勤めされてる方のほうが優先で、加西市に縁もゆかりもないという方につきましては、保育の必要量は下がってきます。

○会長

よく加西市に勤めてるいるので、加西市の園に預けたい、と聞くのですが、加西市民を優先にされるので、なかなか入所できない。これから、いろいろな工場がやってきて、そういう要望が増えないかな、というところもあります。せっかく加西市に、と思っておられる方が入れなくて、何かの枠があればな、と思うんですけれども。

○事務局

なかなかどちらをとるのか、難しい部分がありますが、市の政策としては、勤めておられるのなら、もう一歩進んでいただいて、加西市に住んでいただいて、というところにつなげていく方向かなというふうに思います。

○会長

住みよいまち、というところで。

○事務局

はい、住んでいただけるように我々も努力をしていけたらと思います。住んでいただければ同じ市民ということになりますので。

○会長

ありがとうございました。その他で何かありますか。

○事務局

今おっしゃった小学校との交流は当然しないと思いますので、大切にしていきたいと思います。先生にも子どもの姿を見ていただくことは大事だなと思いますので。特に、小学校の教員が、今の保育園・こども園でどういうふうに学んでるかを見るのは、同じように中学校の教員が小学校であるとか、そういうふうなものを交流していかないと分からないことがたくさんありますので、そういうことは大事かなと思います。

それから、いわゆる待機の問題がなかなか解消しないということで、市としても早急に対応しないといけないなと。特に、保育士の確保ですね、そこは本当に大事だなと思いますので、また頑張っていきたいと思います。先生方、ぜひよろしくお願いします。

今いろいろお聞きし、考えないといけないことが本当にたくさんあるな、とに思いました。未来型児童館の中でもいろいろご意見いただいて、地に着いた形で、実際の子どもたちにとって一番何がいいのか、または、子どもたちが今何を求めているのか、そういうことをしっかり把握しつつ、進めていかないといけないなということは痛切に感じているところです。

この会に限らず、いろんな形でご意見をいただいて、それを施策に反映していかなければ、なかなかかえってそのポイントポイントしかありませんので、いろんなことありましたらこども未来課にお伝えいただければな、と思います。よろしくお願いします。

○会長

ありがとうございました。その他で何かありますか。よろしいでしょうか。

それでは、事務局へお返しします。

５　教育部長挨拶

６　閉会

次回　令和６年３月